

第2回検討会を踏まえた今後の対応(案)について

平成27年10月

第2回検討会を踏まえた今後の対応（案）について

ご意見	検討会	今後の対応（案）	備考
■焼山地区ワンドについて			
①イトヨは、湧水の水温に誘われて入ってくるため、本川まで水温を保ったまま到達することが重要である。	第2回	・引き続きモニタリングにより状況を確認していく。	
②魚は温かいほうへ向かうので、季節毎に、流量、魚類などの継続的なモニタリングが必要である。			
③ワンド奥の温度が本川出口まで来ないと魚を呼び込むことができない。本川まで湧水の水温が到達しているか確認する上で、UAV（無人ヘリ等）で定期的な撮影を行う必要がある。			
④湧水量を確保するために、かつてのワンドの河床高や河床の変遷を調べるのが重要である。	第2回	・H27.8にかつてのワンドの河床高などを参考にワンド上流側に試掘を行った。 現在、試掘箇所、ワンドや上流のたまりに簡易水位計を設置しており、水位の縦断変化、時間変動等を把握・整理し、湧水量確保のための検討を行う。	資料2-2 焼山地区ワンド試掘工事概要
⑤地下水の流れを把握するために周辺の地下水位を調査したらどうか。			
■高山地区ワンドについて			
①工事の際には、水際の凹凸（アンジュレーション）を付けることが望ましい。	第2回	・対応する。	
②緩やかなスロープ(5割程度)があると、子供たちが水遊びしやすいと思う。	第1回	・第2回検討会にて改良案を提示済。	第2回検討会 添付資料-2
③水際は本来計画書どおりの緩やかな勾配が望ましい。何のためのワンドか、目的を常に意識すること。	第1回		
■論瀨地区ワンドについて			
①河床高の設定にあたっては、定期横断面の重ね合わせから地形の変遷を整理するとともに、地下水位の調査をしてから決定した方がよい。	第2回	・ご意見を踏まえ、地形の変遷を整理した。 ・地下水については、確認しながら工事を行う。	参考資料
②魚類の観点からは、これまでに溜まった土砂を排除するだけでも効果がある。	第2回	・近傍区間はワンドが少ないことから、本地区では拡幅した水面形状とする。	
■ワンド再生について（共通）			
・施工途中でも見せてもらって、関係者の意見を反映させながら施工してほしい。	第1回	・必要に応じて施工の途中段階で、現地調査を実施し、ご意見を伺いたい。	
■早出川流れの多様性の再生について			
・桑山大橋の右岸2.6k付近にワンドが出来ている。試験施工の検討にあたっては現地状況を確認しておくこと。	第2回	・現地状況を確認しておく。	
■満願寺地区河道掘削箇所について			
・地盤高が高いため、もっと掘込み、ワンドと本川が頻繁に繋がるような形状に修正する方がよい。その際は、池間をつなげ、下流側で本川とつながる形状とすること。	H25.7 検討会	・本年度モニタリング結果が比較的良好であったことから、今後のモニタリングを踏まえて対応を検討する。	資料2-1 モニタリング調査結果（速報）
■阿賀野川自然再生計画書（案）の更新について			
①国管理区間の上流側の津川で、特定外来生物のウチダザリガニが増えているとの情報があるため、阿賀野川でも外来生物の侵入に注意すべきである。	第2回	・引き続きモニタリングにより確認していく。	
②植物では在来種が取り上げられるが、ムシトリナデシコなど河川では外来種が多い。今後監視していく必要がある。	第2回		
③モニタリングの結果を住民に周知したり、また大学の授業としてモニタリングを取り入れれば河川に対する関心が深まると思う。	第2回	・モニタリング結果は、検討会で提示した資料を事務所ホームページ上で公表しており、今後も公表する。 ・大学との連携は、ご意見等を頂きながら対応したい。	
④ワンド再生事業について、住民への広報活動の一つとして、現地に再生目的や事業内容を知らせる看板を設置してはどうか。	第2回	・今後の検討会で、看板案を提示する予定。	
⑤外来種の分布調査などについて、大学の実習と連携できればよい。	第2回	・大学との連携は、ご意見等を頂きながら対応したい。	
⑥川に行かない学生が多い。現場を知ることは重要である。植物、生物系以外の河川工学系の学生も対象としたらよい。	第2回		